



29 文法

この問題の答えは「ウ」です。理由は「ウ」が「城」の読みです。他の選択肢は「イ」が「時」の読み、「エ」が「草」の読み、「オ」が「木」の読みです。

30 文法の形 助動詞

「ウ」は「城」の読み、「草」は「木」の読み、「時」は「イ」の読み、「花」は「エ」の読み、「涙」は「オ」の読みです。

烽火三月に連なり

31 漢字遣い 他動詞(他動詞)

「ウ」は「城」の読み、「草」は「木」の読み、「時」は「イ」の読み、「花」は「エ」の読み、「涙」は「オ」の読みです。

アイエオ

32 文法

この問題の答えは「ウ」です。理由は「ウ」が「城」の読みです。他の選択肢は「イ」が「時」の読み、「エ」が「草」の読み、「オ」が「木」の読みです。

32 文法の形 助動詞

「ウ」は「城」の読み、「草」は「木」の読み、「時」は「イ」の読み、「花」は「エ」の読み、「涙」は「オ」の読みです。

烽火三月に連なり

33 漢字遣い 他動詞(他動詞)

「ウ」は「城」の読み、「草」は「木」の読み、「時」は「イ」の読み、「花」は「エ」の読み、「涙」は「オ」の読みです。

アイエオ

15

国語2年

31 漢字遣い 他動詞(他動詞)

この問題の答えは「ウ」です。理由は「ウ」が「城」の読みです。他の選択肢は「イ」が「時」の読み、「エ」が「草」の読み、「オ」が「木」の読みです。

32 文法の形 助動詞

「ウ」は「城」の読み、「草」は「木」の読み、「時」は「イ」の読み、「花」は「エ」の読み、「涙」は「オ」の読みです。

烽火三月に連なり

33 漢字遣い 他動詞(他動詞)

「ウ」は「城」の読み、「草」は「木」の読み、「時」は「イ」の読み、「花」は「エ」の読み、「涙」は「オ」の読みです。

アイエオ

31 漢字遣い 他動詞(他動詞)

この問題の答えは「ウ」です。理由は「ウ」が「城」の読みです。他の選択肢は「イ」が「時」の読み、「エ」が「草」の読み、「オ」が「木」の読みです。

32 文法の形 助動詞

「ウ」は「城」の読み、「草」は「木」の読み、「時」は「イ」の読み、「花」は「エ」の読み、「涙」は「オ」の読みです。

烽火三月に連なり

33 漢字遣い 他動詞(他動詞)

「ウ」は「城」の読み、「草」は「木」の読み、「時」は「イ」の読み、「花」は「エ」の読み、「涙」は「オ」の読みです。

アイエオ

16

国語2年

33 走り文クロス

33 走り文クロス  
 ① 友達の命を助けるために走ること。  
 ② 王の非道を人に話したことを知られて処刑されることを恐れている。  
 ③ 直前に「君だけが私を助けてくれた」といって、王の非道を人に話したことを知られて処刑されることを恐れている。  
 ④ 直前に「君だけが私を助けてくれた」といって、王の非道を人に話したことを知られて処刑されることを恐れている。  
 ⑤ 直前に「君だけが私を助けてくれた」といって、王の非道を人に話したことを知られて処刑されることを恐れている。

- 解説
- 直後に「君だけが私を助けてくれた」といって、王の非道を人に話したことを知られて処刑されることを恐れている。と感じたのは「夜のせい」ではないことに注意しよう。
  - 現在と二年前の町の様子の対比から考えます。現在の町が「ひっそりしている」「寂しい」と描写されているので、活気に満ちた様子を「にぎやかだ」を活用させます。
  - A 3行目に「のんきなメロスも、だんだん不安になつてきた」とあります。  
 B 老爺から王のメロスの考え方が読み取れます。  
 「悪」に対するメロスの考え方が読み取れます。  
 「はばかり」は、気にして遠慮する様子を表す言葉です。少しでも王に疑われれば処刑されてしまうので、老爺も、王の非道を人に話したことを知られて処刑されることを恐れています。町全体がひっそりしていることから、町中の人と同じように王を恐れていることも読み取ることが出来ます。
  - 老爺が話した言葉の中から、王の心情を表した部分を探して書き抜きましょう。

34 走り文クロス

34 走り文クロス  
 ① 直前に「君だけが私を助けてくれた」といって、王の非道を人に話したことを知られて処刑されることを恐れている。  
 ② 直前に「君だけが私を助けてくれた」といって、王の非道を人に話したことを知られて処刑されることを恐れている。  
 ③ 直前に「君だけが私を助けてくれた」といって、王の非道を人に話したことを知られて処刑されることを恐れている。  
 ④ 直前に「君だけが私を助けてくれた」といって、王の非道を人に話したことを知られて処刑されることを恐れている。  
 ⑤ 直前に「君だけが私を助けてくれた」といって、王の非道を人に話したことを知られて処刑されることを恐れている。

- 解説
- 前後の内容に沿った言葉を選びます。Aは直前に「欺くつもりは、みじんもなかった」とあります。Bは直後に「どうでも、いいのだ」とあります。Cは直前に「だらしない」とあります。Dは直前に「私も死ぬぞ」とあります。だんだんと自暴自棄に陥っていきます。
  - 6行目の、王との約束について述べた部分に「遅れたら、身代わりを殺して」とあります。
  - 「単劣」は行いがいやしく、堂々としていない様子を表す言葉です。メロスに迷いが生まれるように、命を助ける約束をしたことをまどめましょう。
  - 「そうだったら」が指している内容を確かめましょう。7～8行目「私は、遅れていくだろう。……私を放免するだろう。9～10行目「地上で最も、不名誉の人種だ。……私も死ぬぞ」などから、アイ・工は読み取ることが出来ます。ウの「くだらない」は、自暴自棄な気持ちにかられたときの言葉なので、ここでは当てはまりません。
  - 9行目の「永遠に」と11行目の「生き延びて」が同じ意味なので、その前後の「裏切り者」と「悪徳者」が言い換える表現だと分かります。
  - 直前の「君だけが私を助けてくれたにちがいない」から考えてまどめましょう。

35 走り文クロス

35 走り文クロス  
 ① 直前に「君だけが私を助けてくれた」といって、王の非道を人に話したことを知られて処刑されることを恐れている。  
 ② 直前に「君だけが私を助けてくれた」といって、王の非道を人に話したことを知られて処刑されることを恐れている。  
 ③ 直前に「君だけが私を助けてくれた」といって、王の非道を人に話したことを知られて処刑されることを恐れている。  
 ④ 直前に「君だけが私を助けてくれた」といって、王の非道を人に話したことを知られて処刑されることを恐れている。  
 ⑤ 直前に「君だけが私を助けてくれた」といって、王の非道を人に話したことを知られて処刑されることを恐れている。

- 解説
- 直後の「走るの……できません」から考えます。「走ること」だけでなく、何のために走っているのかも含めてまどめましょう。
  - 直後の「走るよりほかはない」や、14～16行目の発言からは、工のような不安や疑念は読み取ることが出来ます。
  - メロスが約束の時間までに戻ってくると信じているセリヌンティウスに対して、王は二人の友情をからかったと考えられます。「メロスは約束を守る気ななかった」なども正答です。メロスの裏切りを想像させるように、話し言葉を書きましょ。
  - 直前の「メロスは来ます」というセリヌンティウスの言葉には、友情を強く信じる気持ちが表れています。イの「信心」は、神を信じる心という意味なので、ここでは不適切です。
  - 8行目「早かったなら」のあとに言葉が省略されていると考えられます。省略された部分を補うとすれば、フィロストラトスは、もう間に合わないと思っただけで、「セリヌンティウス様は助かったでしょうに。」など、不満を表す言葉がふさわしいでしょう。

36 走り文クロス

36 走り文クロス  
 ① 直前に「君だけが私を助けてくれた」といって、王の非道を人に話したことを知られて処刑されることを恐れている。  
 ② 直前に「君だけが私を助けてくれた」といって、王の非道を人に話したことを知られて処刑されることを恐れている。  
 ③ 直前に「君だけが私を助けてくれた」といって、王の非道を人に話したことを知られて処刑されることを恐れている。  
 ④ 直前に「君だけが私を助けてくれた」といって、王の非道を人に話したことを知られて処刑されることを恐れている。  
 ⑤ 直前に「君だけが私を助けてくれた」といって、王の非道を人に話したことを知られて処刑されることを恐れている。

- 解説
- 類義語は、文脈によって使い分けられる場合があります。そのまま置き換えられる場合があります。「心を閉ざす」と言いますが、「心を閉じる」とは言わないので使い分けが必要です。一方、「おにぎりを食べる」「おむすびを食べる」は、置き換えられる場合です。
  - 「刊行」は書籍などを印刷して世に出すことです。
  - 「重宝」は「大切な宝」「大切に取扱うこと」という意味のほかに、「便利だと感じてよく使うこと」という意味もあります。
  - 「暖かい」の対義語には「寒い」もありますが、ここでは「環境のよい部屋」とあるので、快適さを表す「涼しい」が適切な対義語になります。

